令和５年度　東京都立竹早高等学校　学校経営報告

校長　堀切　哲弥

1　令和５年度の教育活動の自己評価

（1）　教育活動の目標と方策について

【教科指導】目標：（1）　授業第一主義の徹底
（2）　「書く力」やプレゼンテーション能力の育成
（3）　到達目標に基づき指導計画を共有し確かな学力の定着を図る
（4）　定期考査採点・分析システムを活用した授業改善
（5）　一人１台端末を活用した個別最適な学び、協働的な学びの推進
（6）　自学自習の態度、習慣の育成
（7）　「大学入学共通テスト」に対応した授業内容の改善

観点別学習評価についての理解が進み、「主体的に学習に取り組む態度」の育成について各教科で工夫しながら実践した。妥当性・信頼性の高い評価の実施に向け、教員研修を継続していく。端末活用について研修を実施し、授業で活用するケースが増えた。今後も校内研修、授業参観等を充実させ、全教科で効果的な活用を目指していく。図書館や自習室を利用した自学自習も定着し、考査前を中心に生徒の自習室利用者が増加した。

【進路指導】目標：（1）　補習・補講の充実
（2）　模試データの活用等による進学指導力の向上
（3）　進路相談の充実
（4）　進路情報の発信力の強化
（5）　キャリア教育の体系的な実施
（6）　グローバルリーダーの育成

「夏期講習」はすべての学年において実施し参加者も増加している。新たに外部人材による学力向上支援事業を行ったが、参加状況等に課題が見られ、次年度改善を図っていく。模試返却と解説を行う「学習ガイダンス」は、すべての学年で実施し、模試データを活用した進学指導を実施した。同窓会（篁会）と連携した「篁会特別セミナー」、理数研究校としての各種事業を実施し、次年度実施予定の海外研修プログラムの準備を進めることができた。

【生活指導】目標：（1）　人権尊重の意識の醸成を通じての豊かな人間関係の形成
（2）　都立高校生にふさわしい節度ある態度の育成
（3）　学校行事の質的向上による学校生活の充実
（4）　部活動の充実
（5）　学習環境の整備・美化

「体育祭」は駒沢公園競技場で行い、感染症対策による制限を最小限にし実施することができた。「文化祭」は３学年がアリーナ劇、２学年はクラス劇、１学年は催し物に取り組んだ。飲食以外は制限なく、生徒が主体性を発揮しすべての学年において質の高い活動ができた。「合唱コンクール」は生徒が中心となり感染症対策を考え、感染者を増やすことなく実施することができた。行事の成功を通して、生徒の自己肯定感が高まったと考えられる。

【その他】目標：（1）　募集活動の充実
（2）　情報発信の充実確保
（3）　施設設備の安全及び教育環境の維持向上
（4）　ICT 活用の強化
（5）　教職員の働き方改革

夏季休業期間の学校見学会、１０月以降に学校説明会を開催し、延べ４０００人以上の来校があった。外部の説明会にも８回参加し、学校 PR に努めた。オンライン学習デーを設定する等、Teams や ClassiNote を活用したオンライン授業や課題配信、提出なども定着し、生徒や教員の ICT 活用技術は向上した。

（2） 重点目標と方策について

① 学習指導の充実

一人１台端末の活用として Teams、ClassiNote 等の教員研修を実施し、授業での活用が増えている。今後も効果的な活用法について研修を継続する。本格実施２年目の総合的な探究の時間では、研修論文の作成や成果発表会まで実施することができた。次年度以降も主体的に学ぶ力の育成に向け、工夫改善していく。

② 進路指導の充実、進路志望の実現

分掌及び学年が連携し、進路指導や出願指導を丁寧に行い、国公立大学合格の増加につながった。高い目標を掲げ、最後まで全力で取り組む生徒は増加したことで、国公立後期試験合格も増加した。

③ 規範意識と社会性を育成する指導

外部人材を活用しての講演会や SNS 使用法の指導を通して、人権を尊重し思いやりのある生徒の育成に努めた。時間遵守の徹底についてはあと一歩である。あいさつの励行と併せて継続して指導していく。

④ 教育環境の整備等

校内の Wi-Fi、学習支援クラウドサービスの全校導入などの整備は整えられた。現在実施している空調設備工事が令和６年８月をもって終了予定である。施設老朽化への対応としてトイレの臭気、蛇口等について改修を求めていく必要がある。学校ＨＰはデジタル委員会を中心に充実させることができた。

（3） 具体的な目標

① 難関国公大学（東京大、京都大、東京工業大、一橋大、医学部医学科）合格者６名、国公立大学合格者６０名、難関４私立大学（早稲田大、慶応大、上智大、東京理科大）合格数１００名

東京大学１名、京都大学１名、東京工業大学６名、一橋大学３名（新卒者）。国公立大学合格者合計は７２名(うち新卒者７２名・文部科学省所管大学校を含む)、難関４私立大学の合格者は９１名（うち新卒者８１名）となった。

② 進学指導の充実に向けた具体的な目標

自習室利用者は３学年を中心に増加した。竹早塾の在り方については今後改善を図っていく。３学年２学期中盤以降、難関大学への合格を目指した演習に重点をおき、指導の充実が図れた。大学共通テストにおける各教科の得点率は全国平均１２４％となり目標を達成した。７科目受験者で８割以上の得点者は１３．７％と目標を下回った。

③ 遅刻・欠席指導を徹底するための目標

学校中心の生活が定着しているが、遅刻・欠席計２０回以上の生徒は全体の１８％で改善が必要である。保護者とも連携し丁寧に指導を続けていく。

④ 部活動への意欲を高め、学業との両立を高いレベルで追求させるための目標

規律ある部活動のもと、活発化してきている。部活動の加入率は１００％超(１１８％)が継続された。

⑤ 本校教育活動への理解を広げるための目標

都立高校全日制等志望予定（第１志望）調査結果による倍率は、１．７９倍となり、目標をやや下回った。組織的な広報・募集活動を継続する。学校ホームページの更新回数は２５０回となり目標は達成したが、昨年を下回った。

2 令和６年度の重点目標とその取組

（1） 学習指導

ア 教科担当者間、または科目・教科間での情報共有や連携をさらに深め、主体的に学ぶ力の育成に向け、生徒の学力向上に資する体系的・組織的な指導を行う。

イ 課題の内容及び分量の精選、定期考査等の難易度設定の工夫等により、自学自習の習慣化を一層促す。

ウ 一人１台端末を活用した個別最適な学び、協働的な学びの推進

エ 「教員相互の授業参観」を組織的に行い、授業力の一層の向上を目指す。

（2） 進路指導

ア ２学年までの共通履修の利点を生かしながら、早期からの進路指導を充実させる。

イ 教科・学年・進路探究部の連携による模試対策、模試分析を実施する。

ウ 総合型選抜を含め、これからの大学入試に対応した教員研修を実施する。

（3） 生活指導

ア 実行委員への指導を適切に行い、体育祭、文化祭、合唱祭の質的向上を図る。

イ あいさつの励行や遅刻防止指導を通じて、規律ある生活習慣の確立を図る。

（4） その他

ア 学校の様子や取組が中学生等にわかりやすく伝わるよう、各見学会及び説明会の内容の工夫を図る。